

ウリ科 アマチャツル属

アマチャツル (甘茶蔓)

Gynostemma pentaphyllum (Thunb.) Makino

自生環境

野原、水辺、林縁 など

原産地

日本在来

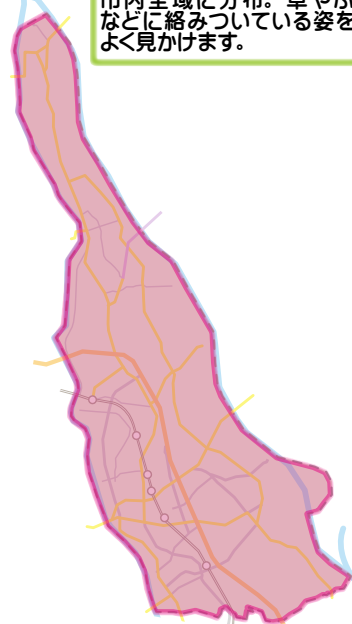
生育を脅かす要因

(今のところ特になし)

市内全域にごく普通で、今のところ絶滅の心配はありません。しかし目の敵にしすぎるのは考えもの。地域に咲く野の花として、やさしく見守る気持ちを大切にしたいところです。

市内の分布状況

市内全域に分布。草やぶなどに絡みついている姿をよく見かけます。



特徴

- ☆ 林のふちや草やぶ、水辺など、やや湿った場所に多いつる草です。つるであちこちに巻きついたり、覆いかぶさったりしながら育っている姿をよく見かけます。また地下茎を長くのばして、横に広がるように増えていきます。ふつう小葉5枚（ときに3枚または7枚）で、「鳥足状複葉」というつきかたをしています。
- ☆ 7～9月頃、葉わきから花の穂を出し、小さな薄緑色の花をいくつも咲かせます。花は星形で直径約5mmです。雌雄別株で、雌株は花後に直径7mm くらいの球形の果実をつけます。果実は熟すと黒っぽい緑色になり、その中に3個のタネが入ります。
- ☆ 冬が近づくと、つるの先が土の中に潜って「塊根」という太い根をつくります。この塊根は翌年新しい株として育っていきます。この性質はカラスウリやスズメウリなどにも見られます。

お茶がブームになったことも

アマチャツルの葉は生のままでと苦みが強いのですが、乾燥葉を煎じたものはほのかな甘みがあるため、古くからお茶として利用されています。名前の「甘茶」もそれにちなんだものです。

かつては、たくさんの健康成分が含まれるとして注目され、「アマチャツル茶」が大ブームしたこともありました。ブームこそ去りましたが、今なお健康茶として親しまれています。



花の穂は葉のわきからのびる

体を支えるための巻きひげを出す

茎はつるになってあちこち巻きつく



花冠(花びら)がく

雄花

どちらも花は星形で薄緑色



がく 花冠(花びら)

雌花



熟した果実は黒っぽい緑色



小葉

小葉はふつう5枚



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

